

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第41号

空中回廊

この展覧会は、新たな発見への誘い [コレクション企画 『線の美学』展]
会員のひろば / 新館長インタビュー
愛知県美術館コレクションから [藤井達吉 <扇面流し>] / 友の会活動紹介



○この展覧会は、新たな発見への誘い○

コレクション企画 『線の美学』

10月16日(金)から12月13日(日)まで開催

今回のコレクション展を企画された、中西園子学芸員にお話をうかがいました。

展覧会の企画の経緯について教えてください。

私はもともと抽象美術が好きなおともあり、形・色・大きさといった造形的な要素そのものがもっている表現力に興味がありました。なかでも線は、基本的な要素でありながら実にさまざまな役割をはたして、それらを美術作品の中で見ていくと面白い発見があります。コレクション展の企画は、所蔵作品だけで展覧会を作る難しさもありますが、「線」をテーマにすれば、地域や時代を越えた作品を、いつもとは違った視点から見るができるのではないかと思います。

一方で、音楽やダンスには「線」そのものは見えませんが、音や運動を一続きのものとして捉えようとすると、そこに「線的なもの」が無意識のうちに生じています。そして、それは美術の領域の表現としても時々現われてきます。今回は映像作品も加えるなどして、「目に見えない線」の表現も紹介したいと思っています。

主要展示作品とともに、みどころを教えてください。

まずは、優れたドローイングの作品をご紹介します。線を引きというシンプルな制作方法によって、巧みにイメージが生み出されているのをご覧ください。



アンリ・マティス《マラルメ詩集》より1932年

また、「油絵の中の線」にも着目しています。熊谷守一の《線裸》(1954年)という作品はご存知でしょうか。

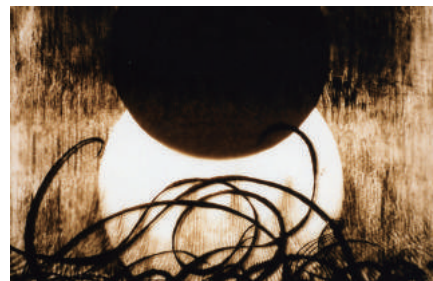
熊谷といえば、平面的な表現を追求した油絵が有名ですが、この作品ではどろどろとしたうねるような筆跡がそのまま人体の表現となっています。

線は、もののかたちを表現するためだけに用いられるものではありません。白いカンヴァスに線が一本引かれるだけで、そこに新しい空間が生まれます。「空間をかたちづくる線」として、ルーチョ・フォンターナの切込みのほどこされたカンヴァス作品などを紹介します。

「運動とスピード」も線によって表現されたり、線のイメージで理解されたりします。その例としては、勅使川原三郎の映像作品《T-CITY》(1993年)を上映する予定です。この作品では2007年に亡くなったモデルの山口小夜子が、線的な動きを取り入れたパフォーマンスをしています。映像作品としては、他に石田尚志の《フーガの技法》(2001年)も上映します。J.S.バッハ(1685-1750)の『フーガの技法』の楽譜を研究し、それをドローイング・アニメーションに変換する試みです。この作品は、線の表現が美術と音楽の領域をつなぐ役割をしていて、今回の展覧会テーマを幅広く理解していただくためにも重要な作品となっています。石田さんには、記念講演会の講師もお引き受けいただいていますので、ぜひお話を聴きにいらしてください。



勅使川原三郎《T-CITY》1993年
Photo: Martin Richardson
愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品



石田尚志《フーガの技法》2001年
愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品

他にも、いろいろな線をご覧ください。いろいろな線をご覧ください。

他にも、いろいろな線をご覧ください。いろいろな線をご覧ください。

2015年度展覧会スケジュールに掲載した
パウル・クレーの作品について説明してください。



パウル・クレー《蛾の踊り》1923年
展覧会を代表する作家の作品として選びました。

クレーにとって線はとても重要な要素です。もともと版画のためのグラフィック(線描)に熱心に取り組んでいましたが、油彩、水彩、油彩転写といったさまざまな技法でも、線を駆使しました。この《蛾の踊り》(1923年)では、飛ぼうとする蛾の運

動の意思が、たくさんの線(矢印)で表現されています。展覧会を代表する作家

最後にこの展覧会の楽しみ方をお聞かせください。

まずは普段見慣れている作品の中で、線がどのような役割を果たしているのかを改めて見ていただきたいです。ひょっとすると下手に見えていた絵が、意外に上手に見えてくるかもしれません(笑)。小難しい展覧会タイトルですが、線の美しさを楽しんでいただくだけでなく、線そのものについて考える機会にできればと思っています。美術作品の中の線の表現を通じて「線とは何だろう?」と考えていただければ、美術の領域を越えて、広く芸術や文化にも通じるものが見つかるかもしれません。

お話を聞いて、展覧会が楽しみになりました。

中西さん、お忙しいところをありがとうございました。

(塚本薫子)

次回展覧会 「ピカソ、天才の秘密」展

2016年1月3日(日)~3月21日(月・振休)

20世紀最大の巨匠 「天才」の名をほしいままにした芸術家・ピカソにせまる展覧会



展覧会を鋭意準備中!
写真は出品交渉のため訪問したオンタリオ美術館(カナダ)の様子。

20世紀の美術における最大の巨匠であるのみならず、西洋絵画史上においてももっとも重要な人物の一人であるパブロ・ピカソ。まさしく「天才」の呼び名をほしいままにしたこの芸術家の個展を、来年1月から開催します。

ピカソは幼い頃から極めて巧みな絵を描き始め、青年期には青色を基調に貧しい人々などを描いた「青の時代」、そして基調色をピンクにした「バラ色の時代」を経て、ブラックとともに「キュビズム」を創始しました。その後もピカソは新古典主義やシュルレアリスムなど、さまざまなスタイルでの制作を続け、91歳で亡くなるまで超人的な創造力を発揮しておびただしい数の作品を遺しました。

今回の展覧会では、ピカソがスペインで誕生してから新古典主義時代までの彼の仕事を通じて、その「天才」たる所以を探ります。彼の作品を所蔵するスペイン、フランス、アメリカなど世界の美術館から協力を得て開催する本展覧会、どうぞお楽しみに!

(学芸員・塩津青夏)

所蔵品管理サポート部会の紹介

平成16年にスタートした所蔵品管理サポート部会は、長屋主任学芸員にご指導いただきながら、和やかな雰囲気の中で活動を続けてきました。無理せず着実に継続した結果、今や全国から見学者が訪れる、愛知県美術館友の会の名物部会です。展示・収納備品の製作から始まった活動は、ときに伊勢物語など古文書の解説補助、インスタレーション作品制作のお手伝いにまでに広がったこともあります。

会員の皆さまにその活動を広く知って頂きご協力いただくため、現在進行中のサポート活動を、武藤和子さんにいくつかご紹介いただきました。

1 最近始めた、藤井達吉コレクションのサポート

藤井達吉コレクションの蕃布(ばんぷ)は19枚あります。蕃布は芋麻(ちよま)からできている、台湾の手織りの布です。これを収納するための「袋」と「芯」を製作しています。



出来上がった収納用備品と蕃布



乾燥中の手袋とサラシ

2 洗濯

美術館収蔵庫や展示室で使用された手袋、サラシ(収納や展示作業の他に多くのサラシを使います)等を洗濯しアイロン掛けして、清潔に保つサポートは、「IPM[Integrated Pest Management]=総合的有害生物管理・薬物に頼らない保存・管理」に役だっているそうです。

洗濯されたサラシが、どのように使われているかは「愛知県美術館ブログ」の2010年2月17日掲載『裏方通信 さらしの話1』に紹介されています。

🔍 検索ワード [愛知県美術館](#) [ブログ](#)

3 所蔵作品カード、フォルダーの作成

愛知県美術館に所蔵されているコレクションの作品カード(作品一つ一つの住民票のようなもの)の整理補助を行っています。また、カードを収納するフォルダーづくりなどを行っています。



作業中の所蔵品管理サポーター

アートカフェVol.1を開催しました!

愛知県美術館友の会は、会員に若手作家と交流できる場を提供したいと考え、新企画「アートカフェ」を開催しました。7月9日、お仕事をお持ちのかたでも参加できるようにと18時30分からの開始です。

初回は、前号でご紹介した展覧会「APMoA Project, ARCH」に6月12日から出展されている今枝大輔さんをゲストにお迎えしました。今枝さんとその作品への質問も途切れることなく、熱気に包まれた交流会となりました。

次回アートカフェVol.2もお楽しみに!!



作品を設置する際には「見取り図」をつくります。
ただ、美術館の「大きさ」は初めての経験。
「見取り図」どおりにいかず、つくっていく中で
変化させて、対応するのに苦労しました。

今枝大輔さん



今回初めてARCHを担当しましたが、
小規模ながら同時期開催の企画展以上に、
設営に時間がかかってしまいました(笑)。



越後谷主任学芸員



愛知県美術館友の会は、団体も入会していただくことができます。現在ご入会いただいている団体は、名古屋芸術大学、株式会社MARUWAの2団体です。ご協力ありがとうございます。



名古屋芸術大学

大学院音楽研究科/音楽学部/人間発達学部

〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL(0568)24-0315 FAX(0568)24-0317

大学院美術研究科/美術学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
TEL(0568)24-0325 FAX(0568)24-0326

大学院デザイン研究科/デザイン学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
TEL(0568)24-0325 FAX(0568)24-0326



株式会社 MARUWA

〒488-0044 愛知県尾張旭市南本地ヶ原町三丁目83番地

TEL (0561) 51-0841

<http://www.maruwa-g.com>

株式会社 MARUWA SHOMEI

〒110-0015 東京都台東区東上野一丁目1番12号栗橋ビル

TEL (03) 5812-0870

<http://www.maruwa-shomei.com>

株式会社 MARUWA QUARTZ

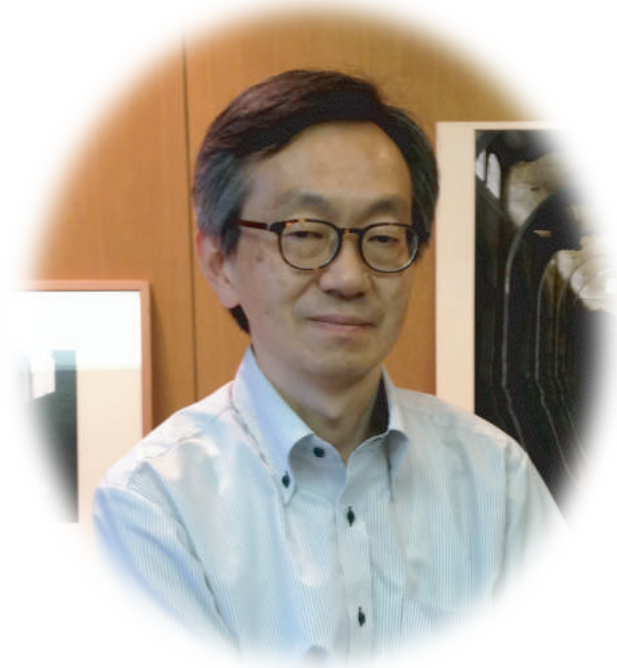
〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字大平7-1

TEL (0247) 62-0012

<http://www.maruwa-g.com>

新館長インタビュー

4月より島敦彦新館長をお迎えすることになりました。業界では異色の、理系出身の館長とのウワサを聞きつけ、編集メンバーで唯一の理系、森健次が突撃インタビューを敢行しました。



Q. 館長は理工学部出身と伺いました。この業界では異色の経歴だと思えますが、どのようないきさつがあったのでしょうか？

A. 大学受験のころ理系教科の方が成績が良かったので、建築がカッコいいかな、と何となく憧れて受験しました。建築学科では学科試験の翌日にデッサンの試験がありましたが、憧れて受けた私は何も準備していませんでした。とにかく描けばいいのだろう、と。ケント紙と鉛筆を渡されて、部屋の真ん中に置かれていた石膏像を描けと言われて、見たまま描きました。他の受験生はみんな、視線の先に鉛筆を持ってきてそれで比率を測っていました。他の受験生の描いた絵は、鼻の頂点・耳・顔の輪郭などをおさえただけのシンプルなものでした。私は、彼らの作品よりも写実的にたくさん描けたと思っていたのですが、彼らの作品の方が正解だったようです。私の作品は、遠近法などが正しくなかったのでしょう。建築学科には落ち、第二志望の金属工学科に進みました。

入学すると、絵画クラブに誘われました。そこならデッサンもやっているのだから、「これだ!」と思い、転科試験を念頭にまじめに絵を描き始めました。ところが、いざ試験を受けようと事務室に聞きに行くと、成績表を見ながら「島くんは物理とアレとコレの単位を落としているから受けられません」と言われ、撃沈。そこで建築学科はあきらめました。

その後は、絵画クラブで油絵三昧。就職を考える頃になって、絵画クラブの先輩が、「島くん、絵を描くのが好きなら、学芸員って仕事があるよ」と教えてくれました。ちょうど各地に美術館ができて始めたころで、地元の富山にもできるとのことで、それから急いで、学芸員の資格を取るために必要な単位を取り、何とか無事に就職することができました。

Q. 理系出身の経歴で、苦労したことや、逆に有利だったことはありますか？

A. 同僚の学芸員は美術史などをちゃんと勉強してきているので、確かに、一歩リードされているという感じはしました。この業界にいれば当然知っているはずの人名・地名・作品名を知らなくて恥をかくことはよくありましたが、今でもあります。でも、美術館の実務となると、それはみんなが初めてのことなので、スタートラインは同じでした。有利だったということではありませんが、理系ということで、メディアアートの展示を任されたことはあります。

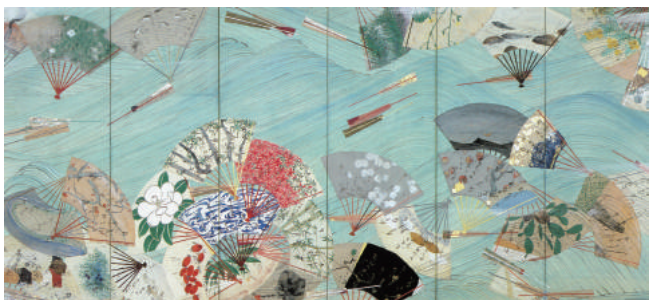
Q. 友の会会員へのメッセージをお願いします。

A. とにかく展覧会をはじめ、いろんなものをたくさん見ることが大事だと思います。その場に居合わせることの重要性を感じつつ、長い間学芸員をやってきました。愛知県内にとどまらず、多くの展覧会や映画、舞台などご覧になることをお勧めします。知らないうちに見る目がこえると思います。

取材後記—私も学生時代、科学館の学芸員になりたくて資格取得を考えたこともあります。実際に資格をとり、学芸員として就職できた館長がうらやましく思えました。

藤井達吉《扇面流し》

(編) ここでご紹介する所蔵作品《扇面流し》の一部分を、本会報表紙に原寸大で掲載しました。



藤井達吉《扇面流し》(部分) 1954(昭和29)年
愛知県美術館蔵(藤井達吉コレクション)



六曲一双の画面いっぱい、水流にのる色とりどりの扇が描かれています。扇面には草花や樹木、水辺の生き物などが描かれ、四季の様々な場面が切り取られています。花の盛りばかりではなく、枯れた姿をも選んでいるところに、藤井の自然に対する眼差しが感じられます。多くの扇面には歌が書き込まれ、近づくと、金銀箔や和紙、貝などが貼り込まれている部分も見とれます。涼しげで、かつ華やかな、藤井の晩年の大作です。

藤井達吉は1881(明治14)年に愛知県碧海郡棚尾村(現・碧南市)に生まれました。名古屋の七宝店で技術を学び、やがて美術工芸家として自立することを意識するようになります。上京し、作家として歩み始めた藤井は、七宝の他にも独学で技法の幅を広げ、金工、木工、漆工、螺鈿、陶芸、染色など工芸全般から、日本画、油彩画、木版画まで多岐にわたって手がけていきます。藤井が目指していたものは、図案と制作が分業され、技巧を競うような職人主義の工芸ではなく、ひとりの作家が発想から制作までを自由に行い、個性を表現する、創造的な工芸の在り方でした。藤井自身、様々な素材の組み合わせや技法の併用によって、こうした考えを実践しています。

《扇面流し》は、藤井が東京の美術界から身を引いて、郷里である愛知の伝統工芸の研究、指導に力を注いでいた時期の作品です。その頃の活動のひとつに小原村(現・豊田市)の和紙工芸との関わりがあります。この小原和紙との出会いは藤井の晩年の

代表的作品「継色紙」の制作へと繋がりました。平安期の和歌の料紙「継紙」に着想を得て、本紙に様々な紙や布、金銀箔や貝を貼り、顔料でモチーフを描き、そして歌を書き付けたものです。図案、絵画、工芸、書をひとつの作品に融合させる手法は、この《扇面流し》の扇の表現にも繋がる部分があるかもしれません。

愛知県美術館では現在、前身の文化会館美術館時代に藤井から寄贈を受けた作品をはじめ、所蔵する藤井に関連する作品・資料群の総目録を作成すべく、調査整理を進めています。藤井の作品はもちろんのこと、共に制作に励んだ姉妹や姪の作品、藤井と交流のあった作家たちの作品、藤井の収集品など、内容は多岐にわたり、また点数も多いため、なかなか大きなプロジェクトになりそうです。これらの調査整理によって、藤井だけでなく、藤井と交流のあった作家や人物の諸相などが明らかになれば、藤井の活動をより多角的に見ることができるのではないかと思います。(中野悠)

■学芸員の横顔

中野悠(なかの・はるか)

この4月で愛知に来て2年目を迎えました。展覧会初担当の「生誕110年 片岡球子展」が閉幕し、ホッとしています。怒涛のように過ぎた1年目でしたが、2年目もあつという間に過ぎ去りそうな予感がしています。





AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

理事会から

理事会役員改選について

本年度定期総会が5月29日に開かれ、議案は原案通りに承認されました。昨年度は友の会創立20周年にあたり、多くのイベントを実施しました。今年度も会員の皆様のご要望に応えられるよう、充実した活動を展開していきたいと思っております。

<新役員の紹介>

- [会長] 小林克敏
- [副会長] 冨永晃一
- [総務担当理事] 副会長兼任
- [講座担当理事] 平松章子 丹阿弥彰子
- [イベント担当理事] 森健次 村尾哲
- [所蔵品管理サポート担当理事] 荻野孝
- [モニター担当理事] 大野三郎
- [広報担当理事] 松下智子 喜田泉
- [監事] 竹内清美 澄和子
- [顧問] 太田幸一
- [美術館] 古田浩俊 小野寺奈津
- [事務局] 中塚千佳

(友の会会長 小林克敏)

第41号 友の会活動紹介

期間 2015年4月—2015年9月

★中面で紹介

『月映』展

- 4月 特別鑑賞会
- 5月 総会
講演会

「片岡球子展」

- 6月 特別鑑賞会



解説は中野悠学芸員。高橋副館長始め、多くの学芸員さんが参加くださいました。あちこちで話が弾み、みなさん、アットホームな雰囲気なかで球子の作品を鑑賞されたようです。

- 7月 アートカフェVol.1★

「芸術植物園」

- 8月 特別鑑賞会



古今東西から様々な「植物」が集められ、マイナスイオンいっぱい。外の喧騒、暑気湿気をよそに、完璧に管理された展示室のなかで気心知れた会員同士、思い思いに語り合うことができました。

バスツアー



初の平日開催!いつも人でいっぱいの奈良国立博物館ですが、少しゆったり鑑賞できたような気がします。公共交通機関ではなかなか足をのばせないところにも行って大満足です。

- 9月 友の会連続講座第1回

定例活動

所蔵品管理/19回 モニター/3回 発送/4回
受付(講座・イベント)/10回 広報/4回 ホームページ/随時更新
理事会/5回

これからの展覧会のご案内

| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------------|------------------|----|---------------------|-----|-----|------------------------------|----|----|
| 芸術植物園 | 8月7日(金)～10月4日(日) | | | | | | | |
| コレクション企画 線の美学 | | | 10月16日(金)～12月13日(日) | | | | | |
| ピカソ、天才の秘密 | | | | | | 2016年 1月3日(日)～3月21日(月・振休) | | |

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

- 10階愛知県美術館受付
- 友の会事務局(火・木・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347
tomonokai@aac.pref.aichi.jp

編集後記

「生き急ぐ」という言葉があります。「月映」の若者も、病に冒されそれでも懸命に生きることを求め続けました。死を意識した彼らの叫びや嘆きは、時代を超えて私達の胸に突き刺さってきます。

□編集 松下智子/冨永晃一/大矢真美代/喜田泉/小林克敏
塚本薫子/森健次/三林浩子/本田良子

□協力 愛知県美術館

□発行 2015年9月

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2

愛知芸術文化センター内

TEL 052-971-5511(代)内線347

FAX 052-971-5617

美術館WEB <http://www-art.aac.pref.aichi.jp>

愛知県美術館 友の会

検索

